

二〇一四年五月二三日

春愁ふ津波禍の地をまのあたり
みどりごの足裏にママの名聖五月
坂登りきつて見下ろす朴の花

せいじ

よし女

きづな

植ゑ終へし田に白鷺の忍び足

雅流

二〇一四年五月一九日

花みかん空青き日はよく匂ひ

菜々

二〇一四年五月一八日

野遊びの一人抜ければつぎつぎと

つくし

山影のしるけき峽の植田かな

よし子

二〇一四年五月一七日

薔薇園の百種百態華やげり

満天

車椅子押す人も又麦わら帽

こすもす

峰の雪残し田植ゑのすすみけり

みちほ

卓涼しガラスの食器並びたる

かかし

二〇一四年五月二二日

車座は課外授業や樹下涼し

つくし

雛鳥の安否気になる青嵐

三刀

家灯り映る田水や蛙鳴く

みちほ

二〇一四年五月二〇日

矢のごとく出入りせわしき軒つばめ

あさこ

田植すは千枚田守るボランティア

かかし

毎日句会みのる選・二〇一四年五月二五日